

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(学生支援GP)選定取組

学生支援GPに、滋賀医科大学から申請の

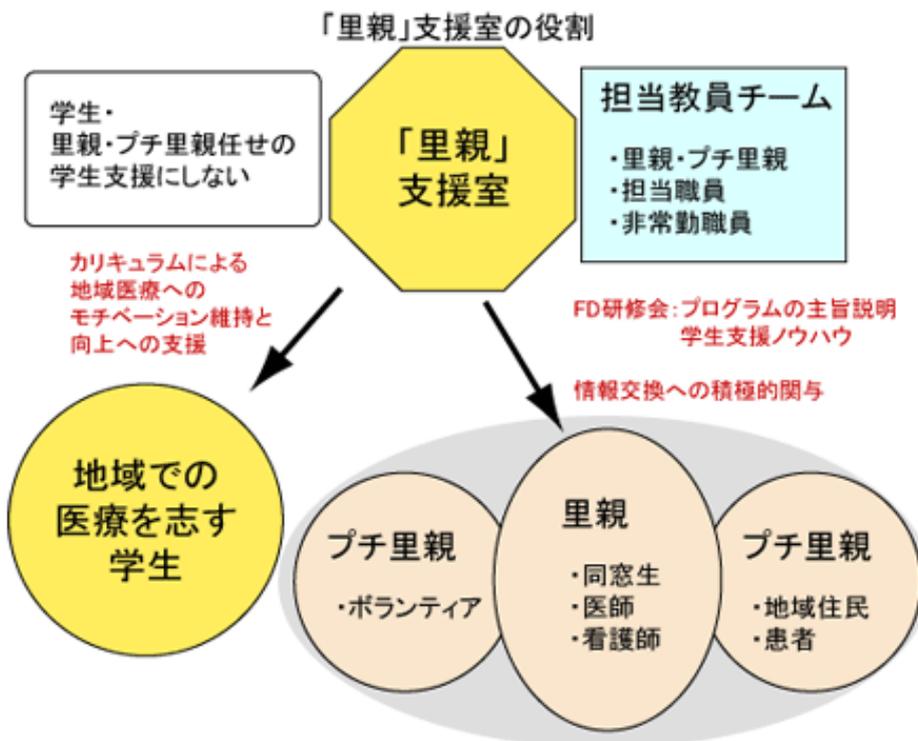
「地域「里親」による学生支援プログラム」が採択されました！

本学の医療情報部永田教授、社会医学講座予防医学埜田准教授を中心に「地域「里親」による学生支援プログラム」として文部科学省に申請したところ、8月29日開催の新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」実行委員会において採択(3年6ヶ月間 81, 320千)が決定しました。

【プログラムの概要】

文部科学省の「平成19年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に、地域の医療を担う医師・看護師の育成をめざす地域参加型学生支援事業『地域「里親」による医学生支援プログラム』が採択されました。深刻化する地方の医師、看護師不足を解決するために、地域で活躍している同窓生だけでなく、地域に暮らすみなさんにも協力をお願いして、さまざまな支援を行ないながらその成長を見守っていこうというものです。

- プログラム概略(jpg)
- 医大ニュース(pdf)
- 里親募集チラシ(pdf)
- プチ里親募集チラシ(pdf)



選定結果

2007年9月7日

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

申請状況

区分	国立	公立	私立	計
大学	74	19	114	207
短期大学	-	1	28	29
高等専門学校	36	0	0	36
計	110	20	142	272

選定状況

区分	国立	公立	私立	計
大学	21	6	21	48
短期大学	-	0	11	11
高等専門学校	11	0	0	11
計	32	6	32	70

選定理由

プログラムの名称	地域「里親」による医学生支援プログラム
(選定理由)	<p>滋賀医科大学においては、学生支援に関して、明確な理念と目標に基づき積極的に取り組み、充実した組織体制の下において、学生支援施策に対する充実した評価・改善方法を構築するとともに、学生支援に係わる教職員の資質向上にも十分な取組を実施し、正課・課外の両側面にわたって多彩かつきめ細かな学生支援対策を進め、学生支援に大きな成果を上げています。</p> <p>今回申請のあった「地域「里親」による医学生支援プログラム」は、社会的ニーズに対応する「地域医療の担い手の育成」という明確な目的を持ち、しかも従来の学生支援と連携を図りながら、卒業生(地域で活躍中の卒業生)を「里親」住民(献体登録者や模擬患者などとして教育にご協力いただいている地域住民)を「プチ里親」とする地域参加型の学生支援を実施するという工夫を凝らした独自の取組であると判断します。</p> <p>特に、医学部学生の抱える悩み・不安に着目し「里親」・「プチ里親」との交流を通して、学生の不安や悩みに対応しつつ学生の人間的成長を図り、学生の地域医療</p>

